

教材は道徳授業の命

～ 定番資料に学ぶ ～

後藤 忠 2021.01.31 補訂

**教材は子供の心を映す鏡であり、
生き方の糧となるものでなければならない**

教材は道徳授業の命といえる。よい教材は子供の心を鮮明に映し出す。

反対に、よくない教材は子供の心を何も映さない。そんな風呂場の鏡のような教材を使って授業をしてもよい授業にはならない。

「よい教材を選んだ」というだけで、「道徳授業の50%は成功している」と言ってよい。道徳授業にとって教材はそれくらい重要なものなのである。

しかし、どんなによい教材を選んでも、教材の扱いがずさんだと、せっかくのお宝も台無しである。

教材は丁寧に扱わなければならない。教材を丁寧に扱うとは、「子供の心に届く教材提示をすること」と、「的確な発問を構成すること」である。

**よい教材とは どんな教材か
～ いわゆる定番資料に学ぶ ～**

学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 第4章 第4節に教材に求められる内容の視点が示されている。それに加え、私が思うよい教材とは、「ねらいに合っている」、「興味関心がもてる」、「分かりやすい」、「臨場感がある」教材である。

言い換えれば、「教師が惚れた教材」は間違いなくよい教材だと言える。

それは、道徳授業は**教師の人間性**で行うものであるからである。

教師が惚れた教材には教師の意思が宿る。教師の意思が宿った教材は熱を帯び、子供の心に響き、迫る。それが道徳授業の醍醐味である。

教材選択に妥協は許されない。

道徳資料は今日までにどれだけの栄枯盛衰(?)を繰り返してきたことか…、おびただしい数の資料が現れては消え、消えては現れた。

現場の厳しい荒波にもまれ、そして乗り越え、今も使われ続けている「**定番資料**」には燦銀の輝きと共に、ある共通の特徴がある。

それは、子供の価値理解を深め、人間理解を深め、他者理解を深めるための**エキス**がふんだんに詰まっているという特徴である。

価値理解：ねらいとする道徳的価値は、人間としてよりよく生きる上で大切な価値であることを理解する。

人間理解：ねらいとする道徳的価値は大切だと分かっているにもかかわらず実現できない弱さが人間にはあることを理解する。

他者理解：道徳的価値を実現したり、実現できなかったりした時の感じ方や考え方は皆一様ではなく、人それぞれだということを理解する。

価値理解だけの教材は何とも胡散臭く、下心満載で鼻白む。かと言って、人間理解だけの教材や他者理解だけの教材では授業にならない。

そのところの塩梅が実に絶妙なのが「定番資料」である。そして、読んでジワッと胸が熱くなるのも共通点と言える。

そんな視点で、あらためて教科書の教材を読み直してみるのも面白いと思う。

おわりに 二言

道徳が教科化されたが、道徳授業の命である教材にはあまり関心が向かず、変な指導法にばかり向いている現状を残念に思う。そのせいかどうか、よい教材が惜しげもなくどんどん捨てられているという話を聞くと胸が苦しくなる。

「そんな昔の、古臭い資料なんて今の時代に合わない」という人がいるが、人の心の情景は今も昔も変わらないはずだし、これから教材を作る人にとっては貴重な踏み石になると思う。

今がラストチャンスだ。古い学校の、倉庫や資料室、図書室、あるいは校長室などをよく探してほしい。昭和30年代から50年代にかけて文部省から配布された資料集はお宝である。

もう一つ。道徳の教科化によって教科書事業から撤退していった出版社がいくつもあった。その副読本や教科書には永年愛されたよい資料がいくつも載っていた。そうしたよい資料も事業の撤退とともに一緒に消えてしまったことは非常に淋しく、もったいなく、残念に思う。

文化を絶やさないという意味で、資料だけでも何とか再登場願えないものだろうか？

(後藤独断撰) いわゆる「定番資料」

(順不同)

小学校低学年	小学校中学年	小学校高学年	中学校
はしの上のおおかみ	泣いた赤おに	銀のしょく台	足袋の季節
かぼちやのつる	絵葉書と切手	友の肖像画	カーテンの向こう
きいろいベンチ	ブラッドレーの請求書	手品師	一冊のノート
くりのみ	花さき山	くずれ落ちた段ボール箱	銀色のシャープペンシル
二わのことり	いのりの手	青の洞門	石段の思い出
ぐみの木とことり	雨のバス停留所で	卵焼き	二通の手紙
きつねとぶどう	まどガラスと魚	はじめてのアンカー	二人の弟子
がんばれポポ	一ふさのぶどう	ぼくの名前呼んで	二度と通らない旅人
きんのおの	金色の魚	人間愛の金メダル	裏庭のでのきごと
およげないりすさん	しょうじきエイブ	ペルーは泣いている	いつも一緒に
わきだした水	ロバをうりにいく親子	くもの糸	埋み火
金色のクレヨン	よわむし太郎	お母さんへの手紙	かけ合う一声の大切さ
お月さまとコロ	ヒキガエルとロバ	一ふみ十年	ミハイルの夢
七つのほし	貝がら	ピシラスとデモン	牛のお産
お月さまが見ている	しあわせの王子	最後の一葉	縄文杉の下で
ゆっきとやっち	あめだま	ふくらんだリュックサック	へその緒
ノートのひこうき	フィンガーボール	すれちがい	加山さんの願い
モムンとヘーテ	ふえの音	流行おくれ	スダチの苗木
花子さんの七夕さま	お母さん なかないで	うばわれた自由	無人スダンド
おじさんの手紙	月の峰のおおかみ	ぼくのお姉さん	一通の手紙から
森のゆうびんやさん	太郎吉と薬や	のりづけされた詩	リーさんのこと
	なしの実	第九交響曲初演	古びた目覚まし時計
		鏡獅子 一平榎田中一	卒業文集 最後の二行
		言葉のおくりもの	監督がくれたメダル
		手のひらの鍵	ネパールのビール
			明かりの下の燭台

※₁ ここには、あえて比較的古い資料だけを載せた。

※₂ 学習指導要領改訂のたびに「第2 内容」が再編され、そのたびに新しい「内容」に(ぴったり)合わない定番資料が生まれたが、それでも「よいものはよい」という観点でここに掲載した。

※₃ この教材は、上記「定番資料」がもつ共通の特徴に照らして選択した。

※₄ 下手な改作によってせっかくの原作のよさ(ことばのもち味)が台無しになっている教材がいくつも散見される。是非にも改善を請う。

※₅ 教材開発に挑む志高き人達に告ぐ! 「定番資料」がもつ共通の特徴をよく理解し、「にわか」で終わらないよい教材を世に送り出していきたいと切に期待している。

なお、本リストは親愛なる友人たちからの貴重な情報をもとに作成したことを申し添える